

子どもは、「あそび」を通して生きる力を育みます。私たちは、人格の基礎構築期にあたる幼児期に優れたあそび環境を整備することは社会全体の責任であると考え、屋内・屋外を問わず総合的にプレイスペースの理想のかたちを探求し続けています。

昨今の少子化対策の主要な柱のひとつとして、子育て支援の中心的な役割を期待されているのが、幼稚園や保育園、幼児教室などの保育・教育施設。子ども一人ひとりを尊重する保育思想が広まるとともに社会的要請も多様化し、従来とは異なる環境の創造が求められています。私たちは長年培ってきた知識や経験を生かし、屋内では欧米で普及しているコーナー保育（各自が発達段階に応じて遊具や遊び方を自由に選択できる空間配置）を効果的に取り入れた環境を創造。一方屋外では、子どもが自然と共生できるような植栽や木陰の導入、グラウンド整備、年齢に応じた大型遊具の選択やゾーニングなど、総合的に提案。「なおび幼稚園」「東百舌鳥保育園」など、新時代の保育・教育施設を実現しました。



001 Kindergartens

クライアント：学校法人荒畑学園
所在地：東京都小平市
竣工：2004年1月
面積：3274.99㎡
(建築面積 1215.27㎡)

なおび幼稚園

「はだか・はだして元気な子どもを育む」という教育方針に合わせ、気温や日差しによって熱をおびやすい鉄製遊具に替えて木製遊具導入を検討中に、ポーネルンドが提案したのがコンパニ遊具。ささくれやすい白木よりも高い安全性に加え、曲線形や素材など細部への配慮も選択の決め手だった。汽車を模した「スーパートレイン」(上)を皮切りに、徐々に古い遊具と入れ替えた。



企画・設計・施工からメンテナンスまで

ポーネルンドは「優れたあそび環境を整備することは社会共通の責任である」と考え、屋内・屋外を問わず子どもが生き生きと遊ぶことのできる優れたプレイスペースを総合的に提案しています。教育施設や公園、商業施設といった各々のあそび場の役割やニーズを考慮しつつ、国内外の施設プランナー、建築家・設計士・デザイナー・カラープランナー、教育の専門家との連携も図りながら進めてまいります。

1.



お問い合わせ

ご連絡をいただいた時点で担当者が赴き、要件を確認したうえで、お見積書（無料）を提出いたします。

2.



企画の立案

関係者からのヒアリング、現場のご要望を確認させていただきながら、企画・デザイン案を作成します。

3.



ご提案と決定

企画書を基に、図面、商品リストを提示しながら詳細を詰め、最終的なデザイン案、商品を決めます。

4.



施工と設置

ご提案書を基に、一級建築士資格など専門的なスキルを持ったスタッフが、施工から製品設置までをトータルに監修いたします。

5.



メンテナンス

メンテナンスグループ会社が、万全のアフターケアを実施、あそび場の安全性維持を支援いたします。

002 Nurseries

クライアント：社会福祉法人よしみ会
所在地：大阪府堺市
竣工：2004年3月
面積：約2272㎡

東百舌鳥保育園

「子どもが自分であそびを決められる園に」という園長の思いを具現化する全面改装を機に、屋内外全体の環境を提案。園庭には盛り土をして小山を作りトンネルを通した(下)ほか、すべり台をはじめ、コンパニ社の大型遊具を多数配置。屋内は独・ベカ社の木製遊具(上中央)を効果的に使い、ごっこ遊びやコーナー保育環境を完成させた。



インタビュー 東百舌鳥保育園 園長 中辻祥代氏

長年、年齢別保育体制をとっていましたが、子どもたち一人ひとりと向き合った保育の重要性に気づき、子どもたちの日常生活にとって何がベストかを改めて考え、思い切った新たな取組へと一歩踏み出すことにしました。しかし、園児数約200人と規模の大きな当園では、自主性をのばすコーナー保育は難しいのではと不安もありました。そんな時、北欧の保育園を訪れる機会がありました。そこで、個々の自主性が育まれ、子どもたちが満足できる生活（＝あそび）が実現されていることに大変感銘を受け、このような北欧の保育環境を目指すことにしました。

とは言っても、それを実現するための保育用品は、日本にはなかなかありません。その点、ポーネルンドの遊具や保育用品は北欧のもののような木のやさしさや色のおもしろさがありました。そして何より、遊具一つひとつに哲学と想いが感じられました。屋外遊具のレイアウト、築山作りから室内環境の提案、そしてメンテナンスま

で、ポーネルンドに依頼することになった理由です。体育指導向けのグラウンドでしかなかった園庭にもずっと疑問を持っていました。人間は本来、自然とともにあるべきですが、都市化が進んだ現代生活では困難です。そこで、子どもたちの成長とともに木々や自然も豊かに育つ環境を目指し、植栽などを工夫していくなど環境全体の見直しへと発展していきました。植栽などの試行錯誤を重ねていくなかで、築山も木々もずっとそこに存在していたかのように思えるような園庭へ、日々変化しています。

園児のようすにも、環境の見直しを機に落ち着きや集中力が高まるなど明らかに変化が見られます。地域住民の方々からは、「オアシスのようだ」という声も聞かれるようになり、週2回の園庭開放も予約がすくすくいっぱいになる状況が続いています。

